



正しい日本語を知り、文章が構成できるようにするために…

平成と令和の2019年から明けて、2020年が始まりました。年末年始休業の13日間を、子どもたちはどのように過ごしたのでしょうか。1年間に何回か訪れる節目の一つではありますが、新年と新年度はともに太くて大きな節目です。志を明確にして、勇気とやる気を前に押し出ししながら、小さな歩みを刻んでいってほしいと願っています。

さて、昨年12月にOECDが発表した「国際学習到達度調査(PISA)」の結果を受けて、“日本「読解力」急落15位”と、新聞に掲載されました。その要因として、長文の読み書きが減ったことが挙げられています。スマホを使って、友達と短文でのやりとりすることで、単語や略語だけの気軽な話し言葉で通じることや読書を通じて正しい日本語に触れる機会の減少が、言葉の乱れにつながっていると考えられています。

実際に、中高生ら(13~19歳)のスマホ保有率は、約84%。10代のライン利用率は、2012年の約39%から2018年は約89%に大きく伸びています。

こうした状況は、予備校や大学の先生、企業関係者が感じている、次のような事例に見てとれます。

- * 「あなたのお母様」ではなく、「あなたの母」と言う学生に理由を聞くと、
「『母』は敬語だと思った」と答えた
- * 「きれい」の否定形を「きれいくない」と言う、また「違った」を「違かった」と言う
- * ゼミで発表させると、接続詞を使い分けられず、「そして」「そして」…と連発する
- * 論述テストで、接続詞の代わりに「→」を使う
- * 「そうかと思いきや」と言ったら、「“きや”って何?江戸弁ですか」と言われた
- * ゼミの連絡をラインで送ると、「長いので切ってください」と言ってくる学生がいる
- * 学生から提出されたレポートに、「この公園には滑り台をする」と書いてあった
- * ビジネス文書に「!」がついていた



正しい日本語の使用が危ぶまれるのは、高校生や大学生に限ったことではなく、小中学生にも言えることかもしれません。特に、「書く」ということに非常に抵抗のある子どもたちがたくさんいるのです。ICTの普及は喜ばしい反面、どのように利活用するかは意見が分かれるところです。小学校段階では、自分の考えをまとめたり、ノートに自分の言葉で記録したりすることを大切にしたいものです。

また話は飛びますが、以前、私が行政勤務をしていたとき、書類を封書で受け付けることが多々ありました。その時に驚いたのが、宛先住所や宛名を書く場所、差出人名を書く場所、切手を貼る場所が滅茶苦茶なことでした。当たり前と思われることが、決して当たり前ではなくなっていることを痛感しました。ですから、6年生の書写で、「元担任の先生やお世話になった先生に季節のお便りを書こう」という学習で、はがき大の用紙に時候の挨拶などを交えて文章を書き、宛名や住所、差出人などについても指導されているのを見たとき、ちょっと安心しました。年賀状を書くこと自体が減ってきましたから。

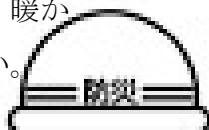
さて、皆さんが感じる、お子さんの文章や言葉の力はいかがですか?その都度きちんと指導することも大事ですが、私たち大人が正しい日本語を話し、書いているかが問われているのかもしれない。

そういう私自身、言葉や接続詞、助詞の使い方が正しかったか不安になってきました。

地域防災訓練

減災は、日頃からの積み重ねが大切！慌てないためにも、親子で体験してほしいと考えています。

- 日時 令和2年1月19日（日） 11時～12時
- 場所 信篤小学校 体育館
- 内容 ①炊き出し(アルファ米)訓練&配付
②ボックストイレ・段ボールベッド体験
③防災倉庫・屋上見学 等
- その他 寒いことが予想されます。暖かくしてご参加してください。



6	月	朝会
7	火	3校時日課
8	水	給食開始 身体計測
9	木	身体計測
17	金	長縄集会、自由参観
20	月	1年昔遊び体験ほか
21	火	なのはな交流会 高谷中生徒会来校
22	水	3年クラブ見学
24	木	4年校外学習
27	月	家庭教育学級最終
29	水	6年キャリア教育予定
31	金	入学説明会 10:00



過剰に刺激を受けやすいHSC

HSC（HSP）は、エレイン・N・アーロン博士が提唱した概念で、ハイリー・センシティブ・チャイルド（HSC）・ハイリー・センシティブ・パーソン（HSP）のことです。不登校や引きこもりの一因として、この概念が注目されています。周囲の刺激に敏感な子供たちのことを指し、大人になっても敏感な人はHSPと呼ばれます。どちらも病気ではありませんが、勉強や仕事などの社会生活が辛くなる場合があります。特に敏感なのは「五感」と「気遣い」だと言います。

HSCは、人の多いにぎやかな場所が苦手だったり、光やにおい・味に敏感であったり、人の気持ちを察しすぎたりするという特徴があります。幼い時にはちょっとしたことで泣いたり、睡眠が浅かったりします。逆に、気配りが上手で、繊細さがあることからうまく自分の感情をコントロールできれば社会でも優れた才能を発揮する可能性があるのです。性格なので病気ではありませんが、医師の診察を受けると発達障害や不安障害と診断されることもあると言います。私も初めて聞きました。

友達や先生の発言や態度に心が傷つく敏感な子供たちは少なくないようで、周囲からあまり理解されないがために、学校に行くことや友人関係に疲れて、不登校や引きこもりになってしまう可能性があります。ですから、本人や保護者が自覚し、先生や友達など周囲の人に理解してもらうことは必須です。

《引用・参考》石蔵文信氏『新学期に注意したい不登校・引きこもりの一因となるHSCとその対応策とは？』

様々な障がいの理解は進んでいます。半世紀前には「ちょっと変わった子」で終わってしまっていたことが、現在では随分認知されるようになったことを感じます。それでも、まだまだ理解不足で「困り感」を抱えている子供や大人はたくさんいるはずで、HSCに少しでも関心を持たれた方は、下のURLからも情報を得られます。具体的な事例や対応等が掲載されていますのでどうぞご覧ください。

(1) <https://news.yahoo.co.jp/pickup/6345761>

(2) <https://www.sankei.com/life/news/190227/lif1902270012-n1.html>